

宝林宝樹 (7)

令和三年のプロ野球日本シリーズはヤクルトとオリックスの対戦でした。その中で印象に残る場面がありました。第一戦、ヤクルトは抑えのマクガフ投手が打たれ逆転負けを喫しました。短期決戦ですから、多くの人は「もうマクガフを使うのは怖いなあ」と思ったことでしょう。しかしヤクルトの高津監督は「僕は気にしていない。君にまかせているよ」と、以降の試合もマクガフ投手にマウンドをまかせました。結果、マクガフ投手は立ち直り、見事ヤクルトを優勝に導いたのでした。

しかし、この「まかせる」ということ、実際にはとても難しいことだと思います。口にするのは簡単ですが、私たちは本当の意味で「まかせる」ことができていますでしょうか。「あなたにまかせた」と言いながら、「ちゃんとやっておいてくれたか」と、ついつい口を出したくなってしまうのが私たち人間というものです。

しかし、そんなまかせられない私たちであっても、いや、それだからこそ「絶対大丈夫。まかせてくれよ」と喚(よ)びかけ続けてくださるか。それが私たちのご本尊の阿弥陀如来という仏さまではなかったでしょうか。そんなことを改めて思った日本シリーズでした。

